

第2学年 道徳学習指導案

- 1 主題名 すなおなところで (低1ー(4) 明朗・誠実)
資料名 やぶれた 本 (光文書院)
- 2 主題設定の理由
 - 本指導内容は、「うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。」ことを主なねらいとしている。

「素直」とは、明るく、よりよい生活をしていくために必要不可欠な価値である。子どもから大人まで、誰もが大切にしていかなければならない、自分をよりよくしていく土台となる価値である。特に低学年は、他律的で人からの評価を受けないと善悪をなかなか認めにくい傾向がある。できることなら、しかられることを避けたいという思いがある。だからこそ、低学年のうちからこのような価値を内面的に自覚していくことは、中学年、高学年、そして社会にでていく上で、人とのよりよい関係を築いていく土台となると考える。

この「素直」を分析的にとらえると次の3点にとらえられる。
 - 1 自分にとって素直にすることがマイナスであるとわかっていても、それを発揮した時にさわやかさや、プラスの思いが生まれる価値である。
 - 2 先生や両親、大人からの叱咤が予想された時に最も発揮しにくい価値である。
 - 3 自分の過ちを認める時に心の中で問われる価値である。本時では、この2に視点をあて、ここから本時のねらいを設定し、学習を進めていく。

なお、「素直」の系統性については、中学年では、「正直に明るい心で元よく生活する。」という内容を中心に、高学年では、「誠実に明るい心で楽しく生活する。」という内容を中心に指導されるものであって、そこにつながる初期の段階の低学年では、既述した2の視点を中心に据えることで系統的なバランスをとる。
- 本学級では、友だちとケンカした時に自分から「ごめんね。」と謝ったり、宿題を忘れた時に「宿題をしてないので休み時間にします。」と言ったり、素直に自分の過ちを認めようとする子どもの姿が多く見られる。

しかし、その一方では、友だちとケンカした時にいいわけをして自分の過ちを認めなかったり、教師から言われるまで宿題を忘れたことや、忘れ物をしたことをだまっていたり、物を壊した時にそのことが誰かに気付かれるまでだまっていたりする子どもの姿も見られる。

その原因としては、一つ目は、誰にでもごまかしてしまうという気持ちがあり、特に低学年は他律的な発達段階にあるために、先生や母親などから指摘されなければ、自分で誤りを認めることが難しいということが考えられる。
- 二つ目には、自分の過ちを認め、正そうと思っても、それを態度化する際に先生からおこられるから言えないなど、相手や状況に左右されて行動にうつせないということが考えられる。
素直に自分の誤りを認めて正したくてもできない自分がそこにはある。そこで、このような課題をもつ子どもたちに、既述した価値内容を含んだ本資料を通して、素直に謝るとどんな気持ちになれるのか、また、どうして、すっきりした嬉しい気持ちになるのかということ考えさせることは、1～2段階に移行している子どもたちのよさがクラス全体に広がり、大変意義深いものであると考える。- 本資料は、主人公みちおとまもるが、先生の大事な本を破ってしまい、一度はそのことをだまっていたようと本をもどしたものの、どうするか迷い、先生に素直に謝りに行くという話である。

本主題の指導にあたっては、主人公のまもるに視点をあて、先生の大切な本を破ってしまい、気持ちは落ち着かないが、素直にそのことを謝ることができないまもるの気持ちを共感的に理解させ、表情図を描かせたり、役割演技をとおしてアプローチしていく。

導入段階では、悪いことをした時、悪かったことを素直に認めて謝るかという発問をする。
次に、素直になる行動を阻害される条件を提示する。そこから、自分は素直に謝ることができると思いつつも、言い出せない、ごまかしたい弱さが自分自身にあるのではないかという追求意欲につなげていく。展開前段においては、まず、本を破ってしまい、しばらくだまってしまったまもるの負の気持ちを表情図を描かせて考えさせる。次に、「誰が破ったの。」と言われて迷うまもるの気持ちを共感的に理解し、役割演技の前に、自分の考えをしっかりとらせるために道徳ノートに書かせる。そして、子どもが本来もっている「素直に言いたい気持ち」をひきだすために、教師がみちお役(赤)、子どもがまもる役(青)になり、役割演技をする。最後に、迷うが、先生に謝りに行って気持ちがすっきりした時のまもるの表情図を描かせる。めあてにもどり、二つの表情図を比べ、素直になると気持ちがすっきりすることや、素直になつてよかったという思いがわきあがってくることをおさえる。展開後段においては、把握した価値が自分自身にもあったかどうかを気づかせるために、本時のめあてから「素直に謝って気持ちがすっきりしたことはあるか。」という発問をする。なお、経験想起が子どもの中でイメージしやすいように「学校で 家で」などのカードを提示する。終末階では、子どもの中に本時で学習したことが余韻として残るように、教師による説話をを行い、素直な心をもつことよさを実感できるようにする。- 3 ねらい 主人公に共感させていくことで自分の心の弱さを知り、それを乗り越えて、素直に謝るよさに気づき、すっきりした明るい気持ちで生活しようとする心情を育てる。
- 4 本時 平成19年6月
- 5 準備 子ども：道徳ノート 色カード お面 教師：場面絵、表情図、ヒントカード お面

6 展開

段階	主な学習活動	主な支援	期待する子どもの姿
導入	<p>1 教師より提示された状況について考えを出し合う。</p> <div data-bbox="177 524 592 674" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>先生の大切な本を破ってしまった時、すぐにあやまることができるだろうか。</p> </div>	<p>※ 子どもに問題意識をもたせるために、自分の中に素直な心があるのか問いかけさせていく。</p> <p>※ 悪いことをした時にしなければならないことと、実際の行動のズレが視覚的にわかるようにネームカードを活用する。</p>	<p>○ 先生の大切な本を破っても素直にあやまらないといけないな。</p> <p>○ 先生からおこられるからこわくてあやまれないよ。</p>
<div data-bbox="204 692 1485 840" style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <p>めあて すなおにあやまると、どんな気持ちになれるでしょう。</p> </div>			
展開前段	<p>2 資料「やぶれた本」を視聴し、まもるの心情について話しあう。</p> <p>(1) 資料「やぶれた本」を視聴する。</p> <p>(2) まもるがだまってしまった時の気持ちを考え、表情図を描く。</p> <div data-bbox="177 1077 616 1173" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>しばらくだまってしまったまもるくんは、どんなことを思ったでしょう。</p> </div> <p>(3) 「だれがやぶったの。」と言われて迷っているまもるの気持ちを考え道徳ノートに書き、役割演技をする。</p> <div data-bbox="177 1317 616 1458" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「だれがやぶったの」と言われ、迷っているまもるくんは、心の中でどんなことを言っていたでしょう。</p> </div> <p>(4) あやまった時のまもるの気持ちを考え、表情図を描く。</p> <div data-bbox="177 1559 616 1700" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>先生にあやまった時、まもるくんは、どんな気持ちになったでしょう。</p> </div>	<p>※ 子どもに課題意識をもたせるために3枚の場面絵を提示し、めあての答えがでそうな場面を考えさせる。</p> <p>※ 子どもがまもるの気持ちを共感的に理解するために本を破った時のまもるの顔になり、気持ちを言わせる。</p> <p>※ 役割演技の際、多様な考えをひきだす意図的指名ができるように机間指導をして子どもの考えを座席表に書く。</p> <p>※ まもるの迷いを共感的に追求させるために、色カード（うちわ）を使い、役割演技をする。</p> <p>※ 「あやまってよかった」「すっきりした」ということが視覚的にわかるように表情図を描かせる。</p> <p>※ 子どもがめあての答えを見つけられるように前に書かせた表情図と比較させる。</p> <p>※ 実態把握から経験が想起しにくい子どもには、事前にとったアンケートの内容を個別に提示していく。</p> <p>※ 子どもの中に今日学習したことが余韻として残るような説話をする。</p>	<p>○ 先生におこられるなあ。</p> <p>○ ウソついちゃおうかな。</p> <p>○ この本ほうっておこうかな。</p> <p>○ だまっておこうかな。</p> <p>○ 先生からおこられるから。</p> <p>○ 友だちからも嫌われるから。</p> <p>○ お母さんも悲しむから。</p> <p>○ 心の中がもやもやするから。</p> <p>○ だまっている自分がいやだから。</p> <p>○ なき顔がニコニコになったよ。</p> <p>○ 素直にあやまってよかったな。</p> <p>○モヤモヤがすっきりしたからうれしいな。</p> <p>○ 友だちとケンカした時素直に謝まってすっきりしたよ。</p>
展開後段 終末	<p>3 素直にあやまることができた経験を想起し、発表する。</p> <p>4 教師の話聞く。 大事なものを壊してだまっていた話をする。</p>		<p>○ これからも素直になっていきたいな。</p>